

## 2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 1 月 31 日作成)

|                              |  |                                  |                                |
|------------------------------|--|----------------------------------|--------------------------------|
| 小委員会名                        | 拡張排水システム小委員会   |                                  | 主 査 名：坂上 恭助<br>就任年月：2019 年 4 月 |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)          | 環境工学委員会<br>(建築設備運営委員会)   |                                  | 委員長名：持田 灯<br>主 査 名：(長井 達夫)     |
| 設 置 期 間                      | 2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月  |                                  |                                |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | <p>満流を許容・利用するなどして、従来型の排水システムを補完する新しい排水の方式を「拡張排水システム」と呼ぶ。具体的には、機械排水システム（小型圧送・真空）、サイホン排水システム（雨水・雑排水）、非水封式トラップ（自封トラップ）などがある。これらは、従来型の排水システムの体系から逸脱するため、認知と普及に課題がある。そこで、学会として技術的な体系や基準を示すことによって、その普及拡大を支援していくことが、本小委員会設置の目的である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度：刊行小委員会の作業のサポート。新しい適用事例の収集。</li> <li>・2年度：設計資料集の周知・普及。新しい適用事例の整理。</li> <li>・3年度：AIJES の改訂の議論・作業。関連シンポジウム・講習会等の開催。</li> <li>・4年度：新しい適用事例のまとめ。事例集刊行の計画・準備。</li> </ul> |                                  |                                |
| 委員構成<br>(委員名 (所属))           | 委員公募の有無：なし   |                                  |                                |
|                              | 主査：坂上恭助 (明治大学)<br>幹事：古賀誉章 (宇都宮大学)、佐々木敏 (ブリヂストン)<br>委員：小寺定典 (UR 都市機構)、高津靖夫 (芝工業)、谷信幸 (アルモ設計)、前川一郎 (戸田建設)、飯塚宏 (日建設計)、真山淳哉 (タキロン)、摺木剛 (丸一)、臼井政夫 (スマートポンプジャパン)、山本慈朗 (ジェス)、久保勝之 (長谷工)、加藤健一郎 (斎久工業)  |                                  |                                |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)           | なし   |                                  |                                |
| 2019 年度予算                    | 120,000 円  | ホームページ公開の有無：なし<br>委員会 HP アドレス：なし |                                |

| 項 目   | 自己評価   |
|---|--|
| 委員会開催数  | 5 回 (年度内計画を含む)   |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は除く)                         | なし   |
| 講習会   | なし   |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー等)<br>*能力開発支援事業委員会<br>承認企画 | なし   |
| 大会研究集会  | なし   |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等                            | なし   |
| 目標の達成度<br>(当初の活動計画と得られた成果との関係)                | 1. 刊行小委員会による刊行作業のサポート → 達成度 70%<br>2. 新しい適用事例の収集 → 達成度 80% |
| 委員会活動の問題点・課題                                  | 1. 刊行準備作業が延びてしまっていること<br>2. 新しい適用事例の収集の体系化                 |

2019 年度 小委員会活動 自己評価  
(中間年度評価)

|  |  |
|--|--|
| <p>総合評価<br/>(4 段階評価)</p>                 | <p>B</p>   |
| <p>総合評価に関する<br/>自由記述欄<br/>(理由、特記事項等)</p> | <p>本小委員会の主目的である「拡張排水システムの普及の支援」に対して、本小委員会の初年度の活動の自己評価は以下の通りである。</p> <p>第一に「刊行小委員会による刊行作業のサポート」に関しては、「設計資料集」の構成の練り直しに時間がかかり、年度内刊行予定が 1 年程度延びる見通しとなってしまった（達成度 70%）。</p> <p>第二に「新しい適用事例の収集」については、各委員からある程度の数の新しい事例の報告があった（達成度 80%）。</p> <p>以上、総合して、初年度は 75% 程度の達成度とし、総合評価は B と自己評価した。</p> |

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。